

夏休み はせやまの風

舞鶴市立新舞鶴小学校だより

令和8(2026)年7月17日発行

学校HP

白糸中学校区「目指す子ども像」

自ら学ぶ子 ・ 人とつながる子

心も体も鍛える子 ・ ふるさとを愛する子



「自立した生活を!」

- 安全で、自分を高める夏休みに!! -



本日無事に1学期を終了しました。全校児童480名がそれぞれが、主人公として、いろいろな場面で力を伸ばしました。4月当初から1年生を温かく迎え入れ、優しく連れて登校してくれた高学年。登校班長のよき姿が手本となり、元気よく、目と目を合わせて挨拶をし、朝から学

校に活気を与えてくれていました。また、全校児童が新舞鶴小学校の一員として、「やる気」「勇気」「元気」を合言葉に、勉強面でも生活面でも一人一人が全力で取り組みました。元気に集団遊びをしたり、係や委員会などの仕事の責任をきちんと果たしたりできました。さらに、児童会本部の取組をはじめ、どの委員会も工夫した活動を展開し、学級では、係の仕事等を通して、人と関わりながら学校生活を楽しむことができました。

そうして、日々の授業はもちろん一つ一つの取組や行事を通して、子どもたちは個々の「よさ」や「可能性」など、持てる力を発揮して大きく成長した1学期でした。また、いじめや人権の大切さについても考えた1学期でした。

いよいよ明日から夏休みを迎えます。40日間の夏休みは、家庭や地域で過ごし、「じりつ(自立と自律)」の力をより一層育むチャンスです。ご家庭では、「継続は力なり」をキーワードに、以下の点に挑戦させてください。

①【じりつ(自立と自律)】…「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを崩さず、自分のことは自分ですること。夏休み中にテレビやゲーム依存にならないように、ルールを決め、それを守ること。

②【安全】…水の事故、熱中症、交通事故、連れ去り等から自分の身を守ること。

③【仕事】…家族の一員として家の仕事をする。段取りを考えて工夫し、粘り強く続けることは、「社会生活を営む能力、非認知能力」を伸ばすことにつながります。家族の一員としての自覚も生まれ、「ありがとう」「助かった」の一言で人の役に立つという自己有用感が得られます。

④【挑戦し、継続すること】

…玄関の履物を揃える。洗い物をする。洗濯物を干す。自分が脱いだものを片付ける。また、朝晩縄跳びをする。読書をする。新聞を読む。日記を書く。100マス計算をする等々、どんなことでも毎日続けることが大きな力となります。学年に応じて、ちょっとしたチャレンジをさせてください。こんな簡単なことと思うようなことでも、継続し、身に付けることができれば、きっと大きな力となって自分に返ってきます。



「しなさい」は逆効果!?

子どもたちにとっては楽しい夏休みですが、保護者の皆様には、日中ずっと子どもが家にいるということではいろいろなことが心配な夏休みだと思えます。そういう中で、だらだらしている様子やなかなか勉強にとりかからない様子などを目にする、ついつい「～しなさい!」という口調で注意したくなるものです。しかし、「～しなさい」という注意は、実は逆効果であるという話があります。その理由をいくつか紹介します。



まず、「心理リアクタンス」という心理学的理由です。「心理リアクタンス」とは、「自由を制限されたと感じたときに、その自由を取り戻そうとする心理状態」のことで、つまり「勉強しなさい」という命令は、子どもの中にある「自分で決めたい」という自由を脅かす。すると脳は本能的に反発し、むしろ反対の行動をとりたくなるそうです。これは大人でも同じです。命令口調で指示をされると、やる気が出るどころかイラッとしてしまうことがあります。子どもも同じ人間です。命令されれば反発する。これは性格の問題ではなく、人間の脳に組み込まれた普遍的な反応なのだそうです。心理学では「ブーメラン効果」とも呼ばれ、説得しようとするほど、相手は逆方向に動くことが確認されています。

もう一つが、これはかなりドキッとさせられます。脳科学の視点から、例えば「勉強しなさい!」という声掛けを見てみると、子どもの脳は次のような状態になるようです。①脳の「前頭前野」が停止し、集中力が低下する。②脳の「海馬」がダメージを受け、記憶力が低下する。③脳の「扁桃体」が暴走し、不安と恐怖が増幅する。「勉強しなさい」は、勉強させるところか、勉強できない脳を作っているというのが、脳科学の結論だそうです。

親も教師も、何度言っても聞かない時には、ついつい命令口調になってしまいがちですが、そうならないような子どもへのかわり方(例えば、「～してくれるとうれしい」というような「I(アイ)メッセージなど」)を考えていただき、保護者の方にとっても、少しでもストレスの少ない夏休みなることを願っております。

校長 亀井 敬介 教職員一同